

“人類の未来”はどう変わる？ 私の「答えはこうだ！」

「ライフスタイル」

どう変わる？＝私の「答えはこうだ！」

馬居 政幸



1 ライフスタイルの条件

編集部のご意図は人類の百年を一区切りに子どもたちに「夢と希望」をとることだが、ここでは個別日本の、それも近未来である二〇年から二五年後のリアルな世界を描きたい。理由は国や文化の枠を越えた人類共通のライフスタイルなど想定できないこと。もし百年後に単一の型に人類の生活が統一されているとすれば、それこそ悪夢である。さらに、現在の日本の子どもたちを待つ未来は、安易に夢と希望を語れるほど甘くないこと。よほど覚悟して準備してほしいからである。

ではなぜ二〇～二五年後なのか。一九四九年生まれの私が七〇歳代になること。すなわち、現在、五〇歳代前半に最も人口の大きい固まり（コホート）を構成する団塊の世代が高齢期に入り、支えられる側になるため。

ただし、支えられる側と支える側では当然そのライフスタイルは異なる。直接介護する者と間接的に税や社会的サービス等で負担する者でも異なる。職種、収入、年齢、性、家族構成などによっても多様。何よりも、今後の制度変革の成否で変化する。

そこで、人口コホートの観点から対象を限定し、団塊の世代と団塊ジュニア（二〇歳代後半）を中心に描き、現在四〇歳代に届こうとする少産世代とその子どもの少子世代は補助的に言及したい。さらに、次に示す今後の日本と日本人の制度や意識の変換の成否二面から描きたい。まず国内的には、高齢者増と子ども減に対応した政策転換や男女共同参画を阻む制度と意識の改革。また対外的には、国際化・情報化を梃子にした巨大市場での大競争時代を勝ち抜く人と制度の改編。

2 多彩なネオファミリーの誕生 まずは改革に成功した場合。

四九年生まれをピークとする巨大な人口コホートとして、戦後日本の経済的繁栄を専業主婦とサラリーマンという性別役割分業で担った団塊の世代こそ、二一世紀日本の進路を決定付ける高齢化率二五～三〇％時代の主役。その行く末を予測し、五〇代で迎えた新世紀冒頭から、古いへの不安とリストラの嵐をリタイア後の人生への備えのエネルギーにかえ、互いに支え合うパートナーシップ育成を始め。仕事人間や家事人間から、夫婦や仲間の文化創造に自己実現の場を転換し、老いる身体を共に補い合いながら、五〇の手習いで始めたPCを駆使して世界の友とリアルタイムで情報交換。

性別役割分業でニューファミリーを築いた世代のため、男女の技能と感性

に差はあるが、戦前に自己形成した親のもとで生まれ育った多産世代の最後として、貧しさを基調とする生活習慣や生活力に根ざした自力更生の潜在力を蘇らせ、新たな共同参画社会への転換を自ら演出。男女共に新世紀に入つて顕著になった介護産業を始めとするシルバージネシスの最先端でベンチャー起業に挑戦。特に女性は家事育児とパートで培った能力を介護や育児支援サービスの専門技能へと洗練させ、老介護や次世代育成のリーダーの位置を確立。仕事人間であった男性も、その能力を海外に向け、この世代特有のバイタリティを奮い起こし、世界の未来を担う途上国の開発支援に邁進。終の住家は疑似家族のグループホームを典型に、血縁や性差を越えたコミュニケーション。開かれた学校を舞台に、人生の年輪に刻まれた多彩な智慧を孫や曾孫

の年代の人たちに伝えながら合掌。では、子どもの代の団塊ジュニアはどうか。二〇代就職時こそ苦労したものの、IT革命成功で世界の情報大国へと飛翔した日本産業の中核に成長。さらに、少子高齢化の進行に歯止めをかける制度と意識変革の効果により、先輩の少産世代と異なり、親へのパラサイトを早々と解消。公助と共助双方の介護・育児サービスに支えられ、老親介護や育児不安から自由になり、SOHOやフレックスタイムを活用しながら親の世代と異なる夫婦協働の新家庭（ネオファミリー）を創造。男女ともに家事育児と仕事の両立を難なくこなし、ワールドワイドとりわけアジア各地に自己実現の場を構築する。

そして、迎えた二〇二五年三月、中国ハルビンに本社がある情報機器メーカーに就職し、シンガポール情報セン

“人類の未来”はどう変わる？

私の「答えはこうだ！」

「人口・寿命」

どう変わる？＝私の「答えはこうだ！」

宮崎 正康



国連は一九九九年に世界人口が六〇億人になったと発表した。また国連推計などにもとづけば、途上国の多産・少死による人口増大などのために、世界人口は二一世紀中に一〇〇億人に達する可能性が高い。

ところでいきなり六〇億人とか一〇億人とか言っても、生徒には実感はほとんどないし、関連する問題を自ら考える手がかりも少ない。

さらに実は教師の側でも六〇億人とか一〇〇億人とか説明しても、どの程度の実感や手ごたえのある内容になるか、少なくとも宮崎は自信がない。

第1時 人口問題の学習ゲーム

学習ゲームの形の授業にすれば面白いかもしれない。

生徒の喜びそうなキャラクターの安価なシール（他のものでも良い）を大

量に用意する。

四〇人のクラスとすると、まず一六人は見てもらっていて、二四人で学習ゲームをする。（以下数字はクラスの実態に合わせて適当に変化させる。）

説明・「皆さんはそれぞれ国を代表しています。国益を大きくするよう交渉します。」

六人には、それぞれ「一人五枚ずつです」と言っておシールを配布する。一八人は中央の机を取り囲んで座つてもいい、「この一〇枚は一八人分です」と言つて一〇枚のシールをまとめて机の上に置く。

指示・それぞれ国益を大きくするように、冷静に論拠をあげながら交渉してください。
時間は三分です。

ターに赴任する娘の大学卒業・就職祝いのために、日本にも増して急激に高齢化が進行する韓国のシルバー産業育成のアドバイザーとしてソウルにいる両親を迎えて、ニューヨーク出張を切り上げて帰ってきた妻とともに、四〇代後半になった夫は、久しぶりに三世代が集う会食に向けて、新料理披露のための準備に余念がない。

3 改革失敗のつけ

では既得権益に縛られ改革のチャンスを見失った場合はどうなるか。

子育てのための性別役割分業は、子どもの自立（進学や就職）とともに夫婦でいる意味を失う。リストラは職場だけでなく家族の絆にも及ぶ。離婚率の増加である。特に、団塊の世代は生まれながらの男女共学初世代。若き日の学校で培った平等意識が、子どものためという大義名分から自由になった

妻の自己実現への意欲を喚起。日本経済の構造改革に失敗し、コスト削減で生き残りをかける企業努力は、安価な女性パートの職域を拡大。その結果、旧来の家族の解体と男女共に単身者が増加。アパートの一室での老後と公的介護費の膨脹が危惧される。

離婚危機を免れても、仕事以外の生活全てを妻に依存してきた夫は、リタイア後の世界に適応不能。愚痴と無力感に苛まれた余生に埋没。おまけに仕事と家事育児の両立負担を女性のみに強いる労働慣行の改革や育児支援システムの構築にも失敗。二〇世紀末の少子化の原因である少産世代の晩婚化は生涯未婚率の上昇へと進み、都市では男性の三割、女性の二割が独身という時代を迎え、家族介護を前提にした介護保険を破綻に追い込む。

子ども増が期待された団塊ジュニア

も先輩の少産世代以上に晩婚化から未婚化への道を歩み、老いる親へのパラサイト人生は増加の一途。その必然として、歯止めのかかない少子化は子ども産業を直撃。学校は相次ぐ統廃合と教師の高齢化により、社会の変化に取り残され、公教育存続の適否が論議の俎上に。さらに財政改革の失敗と少子化進行による社会の活力低下は、医療保険や年金の破綻はいうに及ばず、二〇世紀末のアジア金融危機を遙に越える日本発大恐慌の予想が世界経済を揺るがす。その結果、ドル・ユーロ・元の三通貨に支えられたネオIMF体制管理下で、日本企業も多くを欧米やアジア各国の資本が支配。中年期を迎えた団塊ジュニアは親以上に能力主義に翻弄され、後輩の少子世代は親の腰に隠れて競争の土俵にも登れない。

さて未来はどちらに。

△静岡大学教育学部教授V



皆川英香氏の授業



佐藤正寿氏の授業



飯岡竜太郎氏の授業



大西洋悦氏の授業

特集 21世紀開幕・未来予測に答える100問100答

21世紀開幕・子供と語る「未来社会への夢」	明石 要一	伊東富士雄	岩本 廣美	宇田川 宏	馬野 範雄
波岡 誠司	温泉 敏	小原 友行	塩谷 賢司	中西 幸男	
21世紀開幕・子供と語る「日本人の気概」	藤川 大祐	藤田 詠司	村井 淳志	山口 幸男	
青坂 信司	浅香 勝輔	安住 順一	石黒 修	上床 美嗣	
江間 昭裕	大久保 幸則	落合 静男	角田 隆弘	斎藤 武夫	
田所 昭裕	田村 勝	山田 政俊	山田 幸彦	安浩	
				(五十音順)	14

21世紀開幕Ⅱ「人類の未来はどう変わる?」私の「答えはこうだ!」	「地球環境」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	小森 栄治
「国際関係」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	「社会体制」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	奥住 忠久
「ライフスタイル」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	「人口・寿命」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	星村 平和
「労働のスタイル」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	「エネルギー問題」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	宮崎 政幸
「情報化の将来」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	「社会機構」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	山下 宏文
「モノづくりの現場」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	「遺伝子の解明」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」	水越 敏行
「戦争と平和」どう変わる? 〃私の「答えはこうだ!」		佐長 健司
		草場 信
		松尾 政弘
		阪上 順夫
		水越 敏行
		佐島 群己
		宮崎 正康
		馬居 宏文
		星村 政幸
		奥住 平和
		小森 忠久
		奥住 栄治
		渡辺 尚人
		深谷 和子
		高橋 恒久
		松本 康
		安藤 豊
		安藤 健三
		館野 大悟
		小林 邦秀
		金子 秀
		中村 克美
		市川 香
		近藤 一彦
		菊池 靖志
		佐藤 幸也
		伊藤 充
		小池 俊夫
		岡田 篤
		福山 憲市
		根本 正雄
		岩田 一彦
		猪瀬 武則
		吉川 幸男
		向山 洋一
		北 俊夫
		佐伯 眞人
		佐瀬 壽朗
		134

21世紀への子供の素朴Q 〃私の「答えはこうだ!」	「戦争」ってなくなる? 〃私の「答えはこうだ!」	渡辺 尚人
「男女平等」はどこまで進む? 〃私の「答えはこうだ!」	「知能ロボット」はできる? 〃私の「答えはこうだ!」	深谷 和子
「働く時間」は縮まる? 〃私の「答えはこうだ!」	「国境」はなくなる? 〃私の「答えはこうだ!」	高橋 恒久
「学校での勉強」は続く? 〃私の「答えはこうだ!」	「古代史の解明」はどこまで進む? 〃私の「答えはこうだ!」	松本 康
「日本と近隣諸国との関係」どうなる? 〃私の「答えはこうだ!」		安藤 豊
		安藤 健三
		館野 大悟
		小林 邦秀
		金子 秀
		中村 克美
		市川 香
		近藤 一彦
		菊池 靖志
		佐藤 幸也
		伊藤 充
		小池 俊夫
		岡田 篤
		福山 憲市
		根本 正雄
		岩田 一彦
		猪瀬 武則
		吉川 幸男
		向山 洋一
		北 俊夫
		佐伯 眞人
		佐瀬 壽朗
		134

総合的学習を視野に入れた社会科授業理論30の提言	社会認識、市民的資質の評価	岩田 一彦
「エコノミックス」から社会科を見直す	インセンティブ「甘く危険な香り」経済の謎を解く	猪瀬 武則
「社会科で求める「考える力」とは何か」	「社会に生きる思考」「社会を生きる思考」	吉川 幸男
「私」としての社会主義―カペルから10年/21世紀どんな社会を目ざすか	教室の事実をひたすら見つめて	向山 洋一
●選択学習/授業づくりのポイントはどこか	●選択学習/授業づくりのポイントを評価①	北 俊夫
●選択学習/授業づくりのポイントを評価②	●選択学習/授業づくりのポイントを評価③	佐伯 眞人
●選択学習/授業づくりのポイントを評価④	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑤	佐瀬 壽朗
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑥	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑦	134
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑧	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑨	130126
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑩	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑪	122
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑫	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑬	118
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑭	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑮	112
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑯	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑰	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑱	●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑲	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価⑳	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉑	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉒	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉓	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉔	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉕	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉖	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉗	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉘	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉙	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉚	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉛	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉜	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉝	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉞	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㉟	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊱	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊲	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊳	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊴	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊵	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊶	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊷	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊸	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊹	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊺	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊻	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊼	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊽	●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊾	106
●選択学習/授業づくりのポイントを評価㊿	●選択学習/授業づくりのポイントを評価	106

グラビア・大使館発・ここを知って欲しい「わが国のNOW」=カタル国大使館/授業で使える広告紙面:PRから見る産業界ウォッチング=土井謙次/社会科授業に挿入できる総合的学習のサイト&ホームページ=五十嵐勝義/扉・20世紀を象徴するキーワード・私の意見=池野範男/目次写真=佐瀬壽朗(134ページに紹介があります)

研究会案内 T.O.S.Sインターネット会議IN東京-51/第44回愛媛幼年教育研究大会-75/筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会-78/香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎・香川大学教育学部附属高松小学校-87/お茶の水女子大学附属小学校児童教育研究会-90